

資料1

エリアブランディング構想の基本事項について

(1) エリアブランディング構想策定事業の概要

1

エリアブランディング構想とは
＝エリア全体の将来都市像を設定し、
全体構想（グランドデザイン）を描くもの。

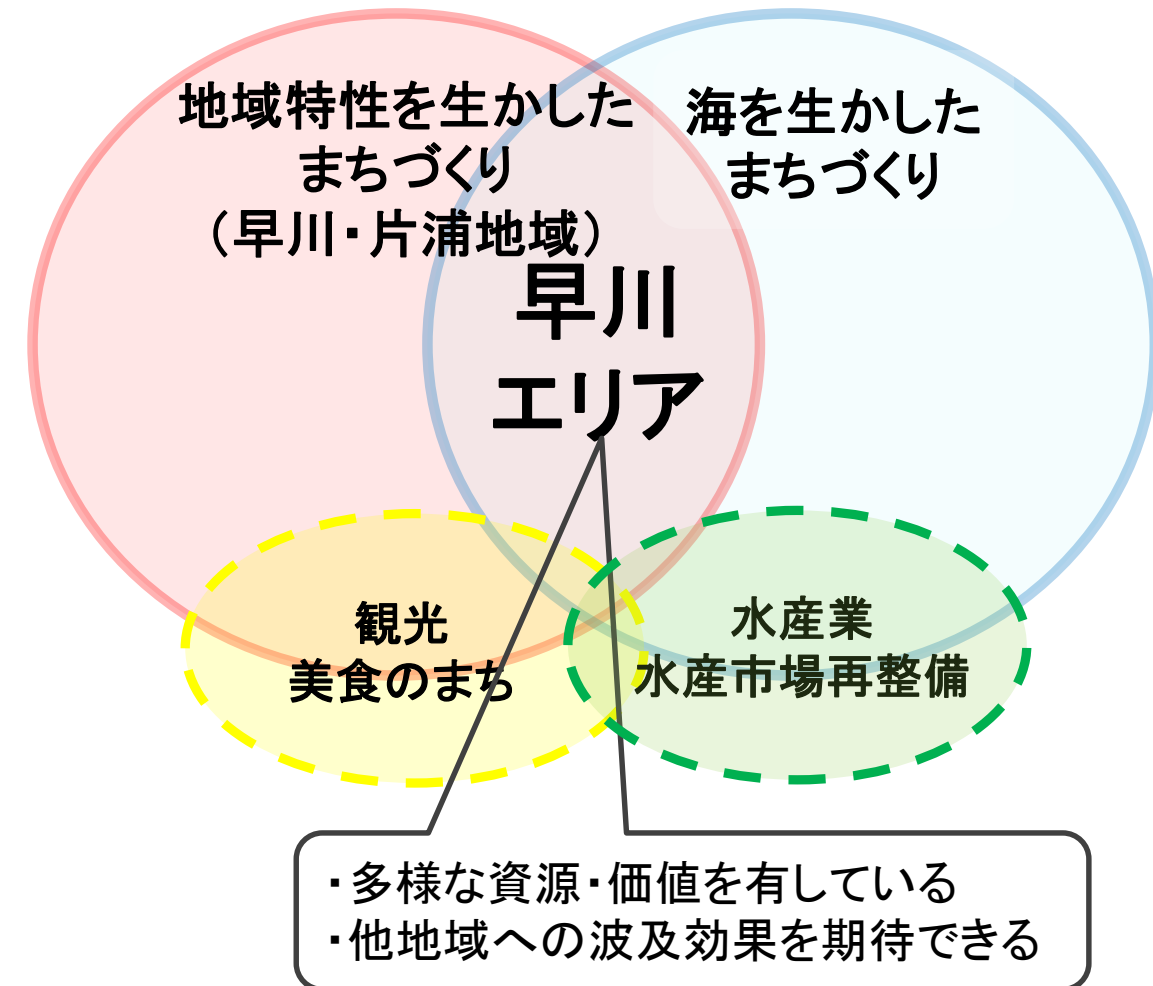
★早川エリアの特性とは？

- ・第6次小田原市総合計画で海を生かしたまちづくりの事業として位置付けるエリア。
- ・「水産市場の再整備」「美食のまち」の事業化を見据えた取組を行うエリア。
- ・既存の施設や地域資源が豊富なエリア。

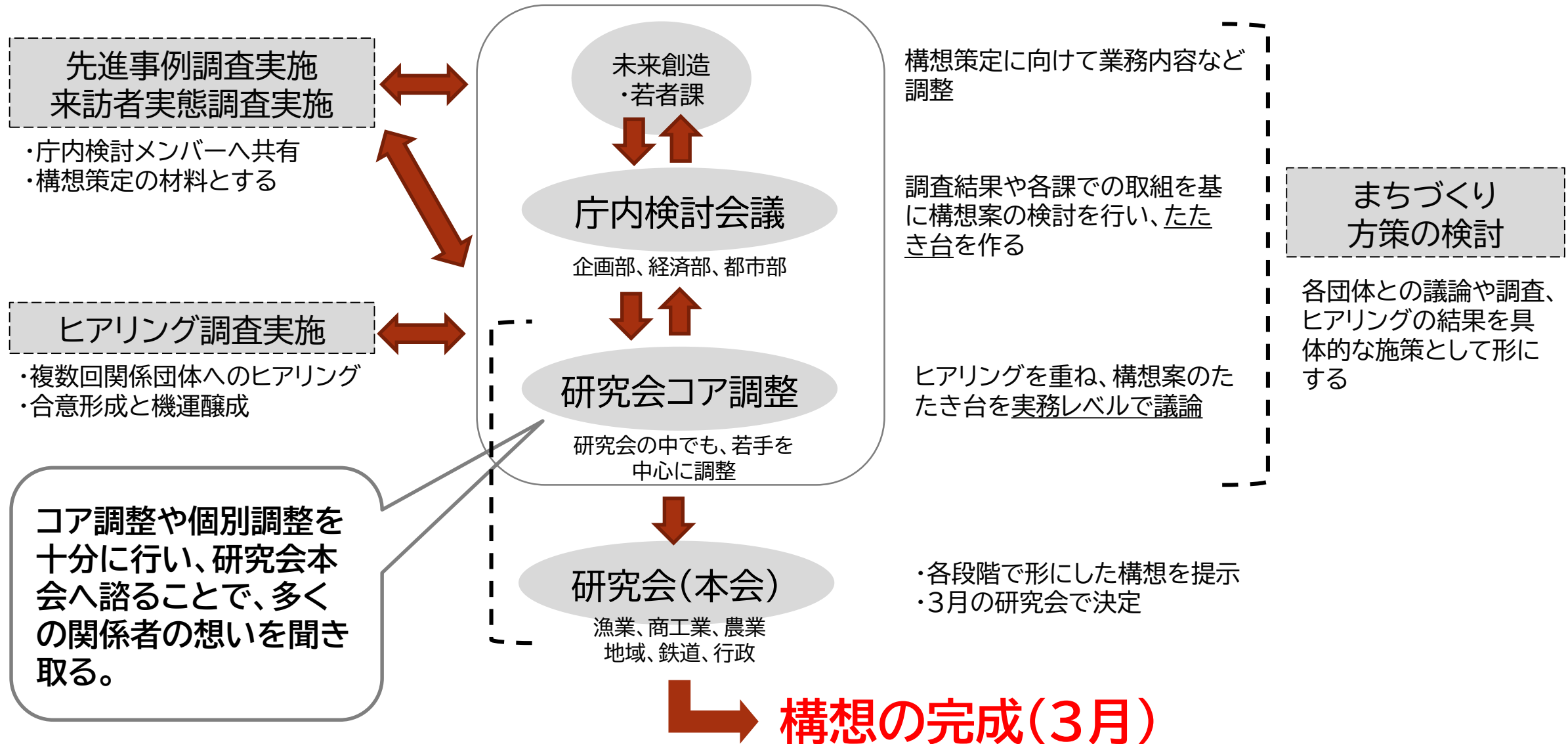
★構想策定のポイント

多様な関係者を巻き込み、将来このエリアの担い手となる若手の意見を踏まえ、合意形成を図りながら構想策定に取り組む。

第6次小田原市総合計画(令和4年度～)



(2) 構想策定における検討フローについて



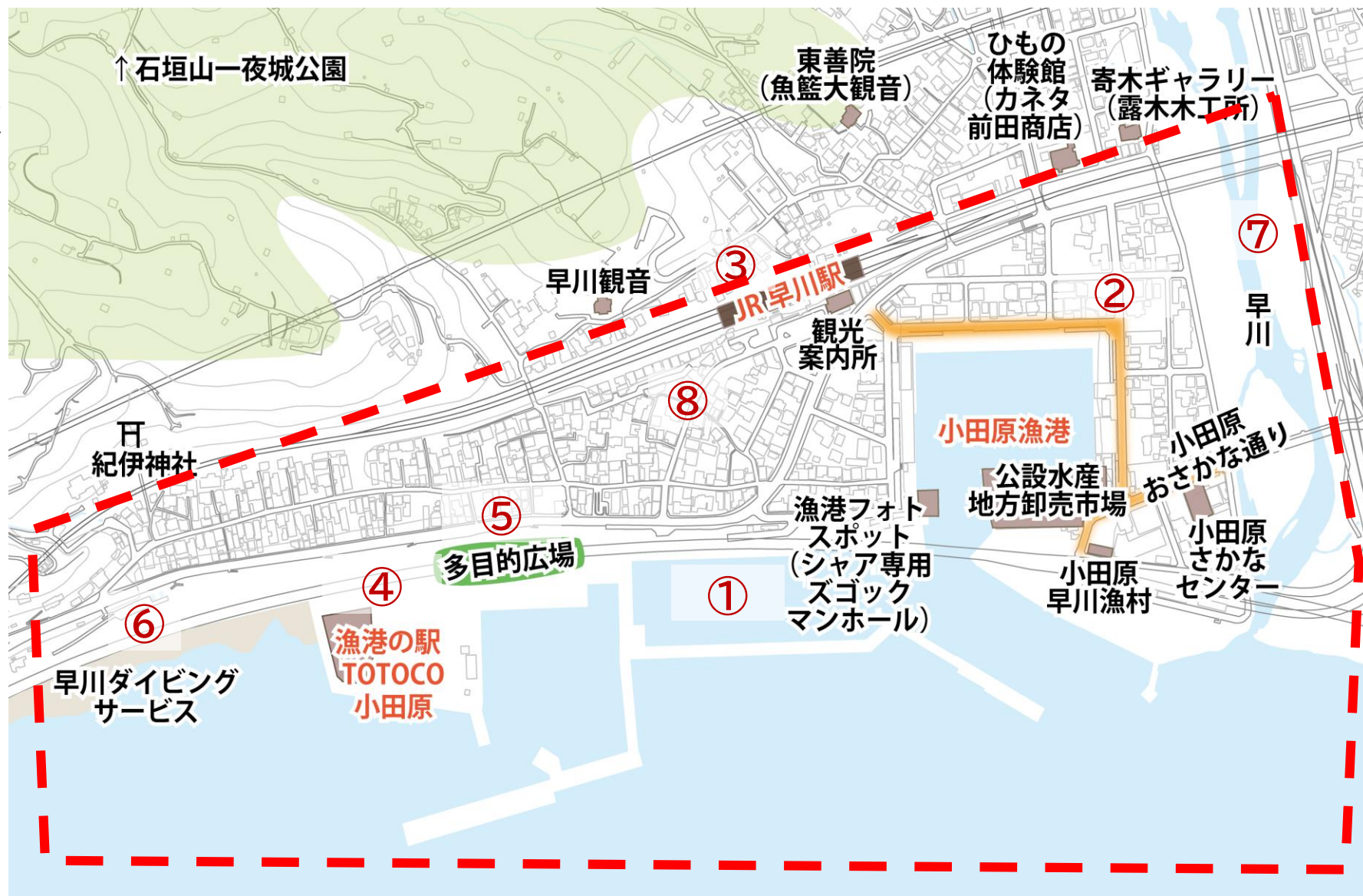
(3)対象エリア及び周辺との連携について

【対象エリア】

二級河川早川～西湘BP石橋IC

【各拠点】

- ①小田原漁港(本港・新港)、
水産卸売市場
- ②おさかな通り
- ③早川駅、早川駅前広場
- ④漁港の駅TOTO小田原
- ⑤多目的広場
- ⑥早川海岸
- ⑦二級河川 早川
- ⑧県道724号



(3)対象エリア及び周辺との連携について

関係団体のヒアリングで、石垣山一夜城公園や山側における農業の施策を求める声



引き続きヒアリングを通じて、海との連携による新たな施策を検討



～未来創造図の作成～

早川エリアの豊かで貴重な地域資源を後世に継承していき、更なる発展を望むとともに、次世代に繋げていきたい関係者の方々の想いと新たな創造を込めた「未来創造図」を描く。

全体構想 令和22年(2040年)

未来創造図を踏まえ、「水産市場の再整備」や「美食のまち」の取組を見据え、2040年を構想年次として、将来都市像や目標の設定、具体的なまちづくり方策を描く。

(5) 構想年次の考え方について

全体構想のイメージパース(例)

これからのまちづくりの取組みを踏まえ、将来像を描く



出展: 福井県都グランドデザイン
県都にぎわい創生協議会 令和4年10月策定

未来創造図のイメージ(例)

次世代に繋げていきたい「想い」「新たな創造」を、共有できるように表現する

